



ドラムメンへの階段 第49回 (連載エッセイ版)

「経験するということ」 佐藤 洋祐

例年になく早い初夏の実感に、生命力溢れる季節の到来を歓びつつも、生活環境の変化やさらには地球の生態系そのものを心配する気持ちもあり。しかし、この世は人知を超えた絶妙なバランスの上に成り立ち、いのちはこれからもずっと続いていくだろうという不思議な安心感も抱いている51歳の5月。

今から振り返りますと、おおまかに40代の始め頃までは漠然とした不安を持ちながらも、経験をしたい、という強い気持ちで盲目的に自分を突き進め、荒れる海のような生き方をしてきたように思います。だからこそ、良かれ悪しかれいろいろな経験をすることができたのでしようし、今のように俯瞰してものを観ていたら飛び込んでいけないような世界もきつとあったはず。当時は飛び込んだその海が荒れているともちつとも思いませんでしたし。音楽をしておりますと、自分よりずっと若いチャレンジ精神に溢れるアーティストたちと接する機会が多いですが、あらゆる生き物は何かを経験したくてたまらずに生まれてきた、というのが私の見解ですので、彼らの冒険心をいつも心から応援したい気持ちです。

私の場合ですが、40代後半にはそれまでの経験や蓄積した知識をもって、言ってみれば「違い」がわかるようになり、そこから生じる怒りや焦燥、不安などの感情が自分を立ち止まらせた時期だったかと思えます。理想とするものが具体的に見え始め、その現実とのギャップに心が執着し、自分に対してより厳しく、自分以外の他者にも不満を感じるが多くなっていた様に思います。こう言いますと当時の自分に対してネガティブな感情を抱いているかのように聞こえますが、今思えばその時期は、ただただ荒波を泳ぎ、時折目の前に現れた小島にすがりついては一息した海原に身を投げ出し、という若き日の在り方を少し見直して、私は最終的にどこにたどり着きたいんだらう?という人生の最終プランを考え始めるための、非常に大事な転機でした。このように書きますと、当時の自分はちょっとした通過点に居ただけだよ、という「上から視線」で見ているみたいに聞こえるかも知れませんが、決して若い私を見下だ立っている場所が違うのです。

50代、今ようやくやりたいことがはっきりし、不安もないとは言いませんが、その不安をやり過ごして淡々と行動に結びつける方法がわかりました。知恵がついた、ということかと思えます。知恵とは知識とは異なるものです。知恵とは、世の中身の回りに起きている事をできるだけ色眼鏡なしにありのままに観るための恵みです。ありのままに観ると、いろいろなことに対して「あきらめ」がつき、自分のやりたいこと、やるべきことが「あきらめ」になります。あきらめ、あきらめ、よく似た響きをもっているのには意味があります。ともあれ、これからコツコツとした牛歩ではあれ、しっかり進むことができるぞ!という歓びを感じる反面、一方では確実に生命力の衰えが見え始めています。例えば、老眼とか、内臓の疲労とか。こりやうまくやらにやあいかなぞ、と気を付けている毎日です(笑)。

たまたま幸運に恵まれ、世界中を飛び回っての演奏ツアーに明け暮れた頃、最初のうちは意気揚々としておりましたが、次第に自分の音楽をもっと磨き上げる時間が欲しいと思うようになり、バンドを辞して日本に戻りました。今こうして、しっかりと勉強してその手応えを以って演奏に臨める幸せを噛みしめながら、ふと、例えば、名譽な受賞をするような機会に恵まれることなく、忙しくツアーしている時間も無く、その間もぶれずにずっとコツコツと音楽の勉強を続けていたら、今とは違った人生になっていたかも知れないな、そんな思いが頭をよぎることがあります。では、勉強もろくに出来ずツアーに明け暮れた数年間は無駄な時間だったのか?いえいえ、決してそうは思いません、私は経験することができたのですから。そして、仮にその経験には巡り合わなかったとしても、きつと別の貴重な経験をしていたでしょう。経験をしたら、というのは、本人が後から過去を振り返って言う言葉。今が幸せだから、こんな経験をしたらけど、それがあって今があるんだよ、と、若者たちに伝えられるのですから有難いのです。今の幸せこそが本物で、経験はそこに至るまでに必要なものですし、経験したからこそ、今、幸せなのかも知れません。(2023年5月13日筆)

佐藤 洋祐 (サトウ ヨウスケ)
ジャズミュージシャン。サクソ奏者としてグラミー賞を2度受賞。2015年末より佐倉市在住。2019年よりシンガーとしても活動を開始。

異常気象や地震が頻発し、今もなお進む温暖化の脅威。そしてウクライナやスーダンは戦火にまみれ、いつになっても争いが終わらないこの地球。でも...この世は人知を超えた絶妙なバランスの上に成り立ち...。洋祐さんの言う通りですね。世界中のすべての人がこの地球の奇跡の存在を思っしてほしいですね。右の写真は洋祐さんが歌手グレゴリー・ポーターさんのツアーに帯同していた頃の写真。この5月に彼の久しぶりの来日公演が予定されています。